

鹿角ゼロカーボンラジオ Nice Action! セカンド 第9回(9月4日(木)放送分)の概要

今回は、「ナッジを使ってゼロカーボンの実現」というテーマを取り上げます。

ただこの用語は、エネルギー業界の用語ではなく、心理学とか行動経済学といった分野で使われている用語となります。ということで、今日の話は、幅広い分野のビジネスとかプロジェクトを進めるにあたって参考になるかもしれないものです。

まずは、「ナッジ」とは何かですが、直接的な訳は、「そっとつつく」みたいな感じとなります。

今回のテーマにおいては、「強制はしないようにしつつも、ちょっとした仕掛けをして、その結果として人の行動を良い方向にもっていく」といった意味となります。

具体例としては、「学生食堂のカフェテリアで、おかずを取るときに、野菜類を目線の高さに置くと、学生の野菜摂取量が増えて、健康的な生活につながった」といったものがあります。

なお今回は、「ナッジ 実践行動経済学完全版」(リチャード・セイラー、キャス・サンズティーン著)という本の内容を参考にしつつ、お話していきます。この本は、花輪図書館にもあるので、関心を持たれた方はぜひご覧いただければと思います。

では、ゼロカーボンを進めるにあたって、「ナッジ」を活用した事例をいくつか紹介しますね。

はじめは、「アンカリングに対応する」という事例です。

まずアンカーとは、船についている「イカリ」のことです。人は、「イカリ」となる何か基準となるものを与えられると、その値や印象をもとに、別の値や印象を推測するという傾向があり、これをアンカリングといいます。

例えば、この夏気温が40度を超える地点が全国で多発していますが、こういう話題を聞いていると、鹿角の最高気温が35度ですと言われても「たいしたことないな」と思ったりしていないでしょうか。

これは40度という数字がアンカーとなって、それより低いから「たいしたことはない」と感じたということですね。でも実際は、油断せず熱中症などには十分注意しないといけないということとなりますね。

ゼロカーボン活動については、逆に「ゼロカーボンはいいことみたいだけど、がまんが必要とか、お金を多めに払わないといけない」といった印象を持たれている方も多いかと思います。それと「普段の暮らしより手間がかかる」といった感じを持たれているかもしれません。

こうした否定的なものを「アンカー」をとらえて、その思いを失くす、印象を変えるといったことをして、みなさまに取り組んでもらいやすくすることを進めています。

たとえば、「夏、家の中が暑いときは、がまんせずにエアコンを使ってよく、そのかわり補助金なども活用しつつ省エネエアコンを使ってもらえると、省エネになった分、ゼロカーボンに貢献できる」といったことをみなさまにお知らせして、「がまんができる人がやるもの」というアンカーを外し、「なんだ、そんなに手軽にできるなら、ゼロカーボンに貢献してもいいかな」みたいな動きになることを期待しているところです。

ゼロカーボン、もっとライトに考えて取り組んでみるのがいいですね。

もう一つ紹介したいのは、現状維持バイアスを失くすというものです。現状維持バイアスというものは想像しやすいかと思いますが、「人は、今置かれている状況から変化することを避ける傾向がある」ということです。こうなる理由は、変えた結果として損失するとその痛みが大きいため、変化を避けたいということや、変えることは「面倒」なのでこのままの状態を保ちたいといったことがあると言われています。

これも思い当たるところがあるのではないでしょうか。

これをなくすために、「ナッジ」の考え方を使います。

例えば、変化するためのハードルを低くするということをします。

例えば、家に太陽光発電設備を設置しようと考えている場合、実際に購入した方のコメントとかを、市民の方に広く知ってもらうようにして、「このまま外から電気を買って続けるより、自分の家で電気を作って、自分の家で使うほうが、停電でも安心だし、地球にも優しいのか、ではやってみようか」みたいな感じになってもらうことを期待したいしています。

物事を進めていくためには、「わからないからやらない」ではなくて、具体例や先進事例を学んだり、すでに経験している方の話をよく聞いてみたいというのが、大事でもんね。そしてこの番組も市民の皆さんにとっての「ナッジ」になれるといいなと思いました。